

2. セミナーテキストの改訂

昨年度の反省も踏まえ、セミナーにおいてテキストを十分活用できるよう、一部に改訂を加えることにし、第1回 検討委員会において改訂内容を以下のとおりとした。

- ・少ない事例から考えを発展させ、多くの事例に応用できる力を養うようにする。
- ・テキストは講演の内容とリンクするようにする。
- ・保護者用のテキストは児童生徒向けテキストとの関連がわかるように工夫する。
- ・保護者の頁にネット社会の特性を追加する。
- ・保護者の項には知っておいて欲しい法的な裏付けを入れる。
- ・理解を得やすいよう、事例をグラフや表で表すようにする。
- ・長く使えるように年度限定のデータは入れないようにする。
- ・「こうしていこうよ、子どもにこう伝えようよ」といった明るい面を前面に出していく。
- ・保護者に、このテキストの意図が伝わるような話を盛り込む。
- ・基本的な構成は変更せず、オリジナリティを生かす。
- ・改訂は最大でも昨年版テキストの50%程度とする。

2.1 児童生徒向けテキストの改訂

学校では、情報モラル教育の時間を授業として数多く特設するのは困難な状況にある。そこで限られた時間で少ない事例しか扱えなくても、他の数多くの事例に応用できる知識・思考力・判断力を培うために児童生徒向けテキストでは、中心事例→関連するその他の事例→判断に必要な知識・見方や考え方のポイントを組み合わせ構成した。

また、授業時間内で全事例を取り扱えなくても、空き時間や帰宅後などに自主的に読んでもらえるよう、マンガを交えたビジュアルな構成とした。なお、本年度は取り上げるべき事例を見直し、急速に変化するネット社会の現状にあった内容に改訂。「少ない事例から考えを発展させ、多くの事例に応用できる知識・思考力・判断力を養う」という基本方針を踏襲しながら、外部からのご意見やセミナーのアンケート結果も盛り込んだ。

たとえば、

- ・「プロフやSNS、コミュニティサイト」の事例
- ・「フィッシング詐欺」の事例
- ・「フィッシング110番（警察庁）」の情報（URL）
- ・USBメモリからのウィルス感染事例など、詳細情報を追加した。



子ども用テキスト

<http://www.cec.or.jp/CEC/>

また、児童生徒向け／保護者向けテキスト共通の改訂内容としては、以下の2点があげられる。

- ・セミナー受講時に鉛筆などでメモを書き込みやすい紙質に変更
- ・冊子全体の色味を軽くし、目にやさしい印象を与える内容に変更

2.2 保護者向けテキストの改訂

保護者向けのテキストには、児童生徒用テキストも合本とし、家庭に帰ってから、セミナーをきっかけとして、情報モラルに関してテキストをもとに会話ができるように配慮した。さらには、「そもそも『いじめっ子』『いじめられっ子』にしないためにはどのように子育てしたらよいのか」も取り扱うようにした。

また、保護者からは、「具体的にどのようにしていいのかわからない」という声をよく聞くため、家庭でのフィルタリングの設定の仕方、事故時の対応手順や相談先・通報先などの連絡先を、できるだけ具体的に記述した。本年度は、最新の情報に更新するとともに、さらに充実した内容をめざして掲載情報を全面刷新。全体的に「明るいネット社会」を打ち出し、「望ましいネット社会を作っていく」というスタンスでまとめた。

全体構成の改訂ポイントは以下のとおり。内容の重複を避け、情報を整理した。

- ・「トラブルに巻き込まれないための緊急対策」と「トラブルに巻き込まれた後の対処法」を明確に区別して記載
- ・「ネット社会は、こんな社会」の項目を新設
- ・最終ページ「ネット社会を生き抜く子どもを育てる」に、「情報モラル指導のポイント」と「子育てのポイント」をまとめて記載

また、各ページの主な改訂内容は以下のとおりである。

- < P.22～23 > 子どもの携帯電話の利用に関する調査結果（文部科学省）を基に、子どもの実態をグラフで効果的に説明
- < P.24～25 > 緊急対策として迷惑メール対策情報、ブラウザのコンテンツアドバイザー機能に関する情報を追加、フィルタリングは解除しないことを強調



保護者用テキスト

<http://www.cec.or.jp/CEC/>

- < P.26～27 > 「ネット社会とは」をさらに掘り下げ、非対面性、匿名性、即時性／広域性という主な特性について解説、「ネット社会は光と影が表裏一体」をイラストでわかりやすく表現
- < P.28～29 > 取り上げるトラブル事例の数を増やし（被害者側／加害者側の両方を含む）、具体的な対処法を記載、「保護者も一緒になって守り解決していくこと」という基本姿勢を強調
- < P.30～31 > 「子育てのポイント」のイラストに手を加え、家庭を基盤として社会（実社会／ネット社会）を生き抜く力が養成されることを表現、家庭教育の大切さを強調
- < 全体を通して > 相談窓口／URL の記載内容を更新

2.3 ネット展開用リーフレットとの連携

昨年実施してみてある程度ノウハウの蓄積ができたが、われわれが行える数には限りがある。

そのため、今後は学校が独自でこのようなセミナーの実施ができるようなセミナー教材を提供していく必要があると考え、まず初めに自己学習も可能なネット展開用リーフレットに着手した。

情報モラル授業の導入媒体として作成したネット展開用リーフレット（後述）には、児童生徒向けテキストの参照ページ数を記載。さらに、PDF 上でリーフレットの参照アイコンをクリックすると、CEC サイト内にアップした児童生徒向けテキスト（PDF）の該当ページが表示されるようにリンクを設定。リーフレットからテキストへの誘導を図った。

リーフレット、テキストといった切り口の異なるコンテンツを作成することで、授業やセミナー、個人での利用など、さまざまな状況に柔軟に対応できる教材をめざした。